

概要

○上田市塩田地区では米価下落や資材価格高騰に加え、**水稻単収の低下やイネ縞葉枯病の発生増加**により、**大規模農家の所得確保が課題となっていた**。また、中山間地域の稲倉棚田では、オーナー制度や酒造会社との連携による特色ある取組が行われている一方、**収量不足により需要に十分応えられていなかった**。

○このため、施肥体系の見直しや病害対策による収量向上と、環境に配慮した特別栽培技術の確立による棚田米の高付加価値化に取り組んだ。

○その結果、**地域に適した栽培体系及び防除体系が確立**されるとともに、大規模農家の収益力向上と中山間地域における特別栽培農産物の安定生産につながった。

具体的な成果

(1) 大規模農家における収益確保対策

■ 単収向上につながる栽培体系を確立

・対象農家の**平均坪刈単収 513kg/10a → 約570kg/10a**

・JAにおいて施用効果のあった全量基肥肥料の資材を替え、新たな全量元肥肥料へ切り替えられた

■ イネ縞葉枯病の防除体系を確立

・ヒメトビウンカ防除に効果がある苗箱施薬剤の普及により防除技術が定着 → 地域の**ヒメトビウンカ保毒虫率が低下**

(2) 中山間地域における特別栽培農産物の収量・品質確保対策

■ 環境にやさしい農産物認証取得と収量向上を両立

・**酒造好適米の単収 約220kg/10a → 最大414kg/10a**

・実需に対応できる供給体制を構築

■ 棚田営農の継続を支える管理体制を構築

・現地勉強会や栽培手順書の活用により栽培技術が向上

・作業のばらつきが減少し、課題であった雑草の発生を抑制

・**保全委員会による主体的な栽培管理が進み、持続的な棚田営農体制を強化**



図1 棚田での勉強会

普及指導員の活動

令和5年度
～令和7年度

- 対象農家に試験ほ場を設置し、肥効調節型肥料等の比較試験を実施し、栽培防除体系を整理し、研修会等を通じて普及
- ヒメトビウンカの発生動態調査及び防除試験を実施し、防除効果の高い苗箱施薬剤の普及によるイネ縞葉枯病対策を推進
- 稲倉棚田における特別栽培技術の検討及び認証取得支援、保全委員向け栽培手順書の整備や現地指導により技術定着と体制強化を推進

普及指導員だからできたこと

- ・波及効果の高い経営体を重点対象に選定することや、**JA等関係機関との連携**により、試験ほ場による実証を通じて得られた栽培技術及び防除体系を**地域へ迅速に普及**することができた。
- ・酒造会社との継続的な情報共有により、**実需者ニーズを栽培技術に反映し、安定供給体制の構築**を支援
- ・大規模水田地帯と中山間地域の異なる課題の抽出、一体的な支援により、**地域全体の収益力向上と棚田保全を推進**